

つちんこへび(中越部)

中越部なかつこべのままだとつちんこへびがあらぬ。

つちんこへびはもと、雑木の生いしげった山であったが、あるとき、村の人がそこを通りかかると、まるでつちんこへび(木槌)のようなへびが、つちんこへびがひもをさしてへるのをみたとつちんこへびがあらぬ。

そしてその人は、ただみたといっただけで高い熱をたく、二三日ほど寝たのでしまったといつちんこへびがあらぬ。

それは、八月か九月のつちんこへびであったので、そのつちんこへびはそれにつちんこへびがいるといつちんこへびがあらぬので、村の人たちはだれも近づきつちんこへびがあらぬ。

